

第187回 全経簿記検定試験 上級 一工業簿記一

模範解答

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

問題1 [丸数字は予想配点、合計 89 点]

問1

1	② ×	2	② ×	3	② ×	4	② ○	5	② ○
---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----

問2

購入代価

材料A [④ 12,825,000] 円 材料B [④ 397,500] 円

取得原価

材料A [④ 13,527,000] 円 材料B [④ 423,600] 円

問3

材		料	
前月繰越	[4,681,000]	仕掛品	[12,663,000]
諸口(当月購入分)	[13,950,600]	製造間接費	[④ 1,858,960]
材料消費価格差異	[④ 14,000]	材料消費価格差異	[—]
		次月繰越	[④ 4,123,640]
	[18,645,600]		[18,645,600]

(注) 金額を記入する必要のない空欄には「—」を記入すること。

問4

直接工賃金の間接労務費分 [④ 88,440] 円

間接工賃金・給料の間接労務費分 [④ 1,816,220] 円

問5

賃金・給料			
諸口(当月支払分)	[3,614,500]	未払賃金給料	[665,310]
未払賃金給料	[④ 661,290]	仕掛品	[④ 1,648,200]
賃率差異	[—]	製造間接費	[1,904,660]
		賃率差異	[④ 57,620]
	[4,275,790]		[4,275,790]

(注) 金額を記入する必要のない空欄には「—」を記入すること。

問6

定時間外作業が経常的に行われておらず、かつ当該作業時間が直接作業か間接作業かを把握して

いない場合、割増分を間接労務費として処理することが合理的である。 ⑤

問7

製造間接費配賦差異 [④ 64,850] 円 (有利差異・不利差異)
該当する方を○で囲むこと

予算差異 [④ 196,150] 円 (有利差異・不利差異)
該当する方を○で囲むこと

操業度差異 [④ 261,000] 円 (有利差異・不利差異)
該当する方を○で囲むこと

問8

借 方	金 額	貸 方	金 額
製 品	21,145,200	仕 掛 品	21,145,200

問9

単純総合原価計算	②
等級別総合原価計算	②
組別総合原価計算	②

問題2 [丸数字は予想配点、合計11点]

問1

価格差異 [④ 53,220] 円 (有利差異・不利差異)
該当する方を○で囲むこと

数量差異 [④ 134,400] 円 (有利差異・不利差異)
該当する方を○で囲むこと

問2

標準原価計算における原価管理の主体は、価格管理ではなく能率管理であるため、両方から影響を受ける差異の部分を消費量差異に含めず、より厳密に把握することが原価管理上有意義であるから。⑤